

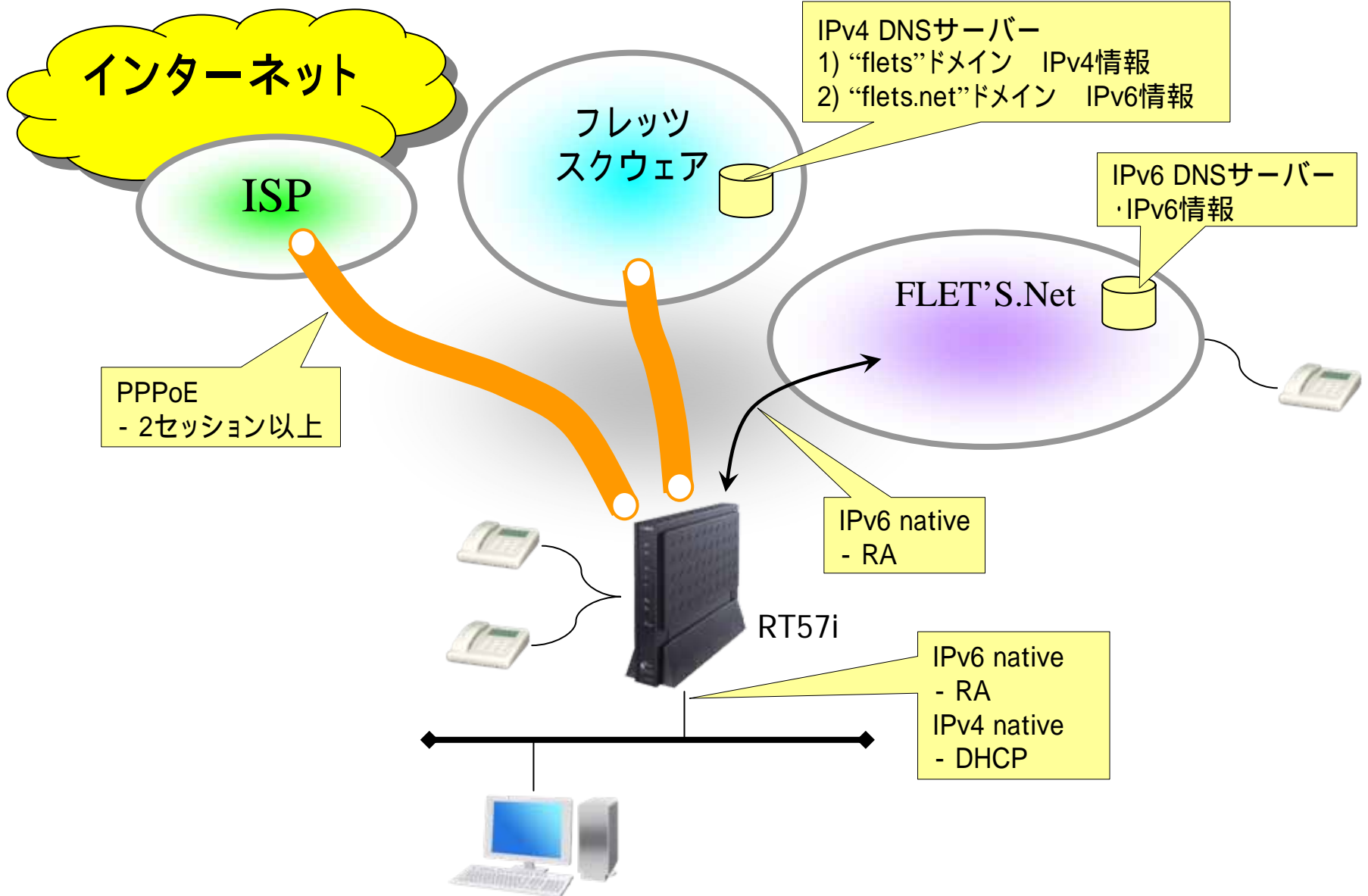
RT57i

~FLET'S.Net対応~

2004/6/1 公開 版



FLET'S.Net想定環境



RT57i用ファームウェア

- Rev.8.00.41ベースの 版(試行版)
- “RT57i Rev.8.00.44 (build 2) (Fri May 28 13:32:21 2004)”

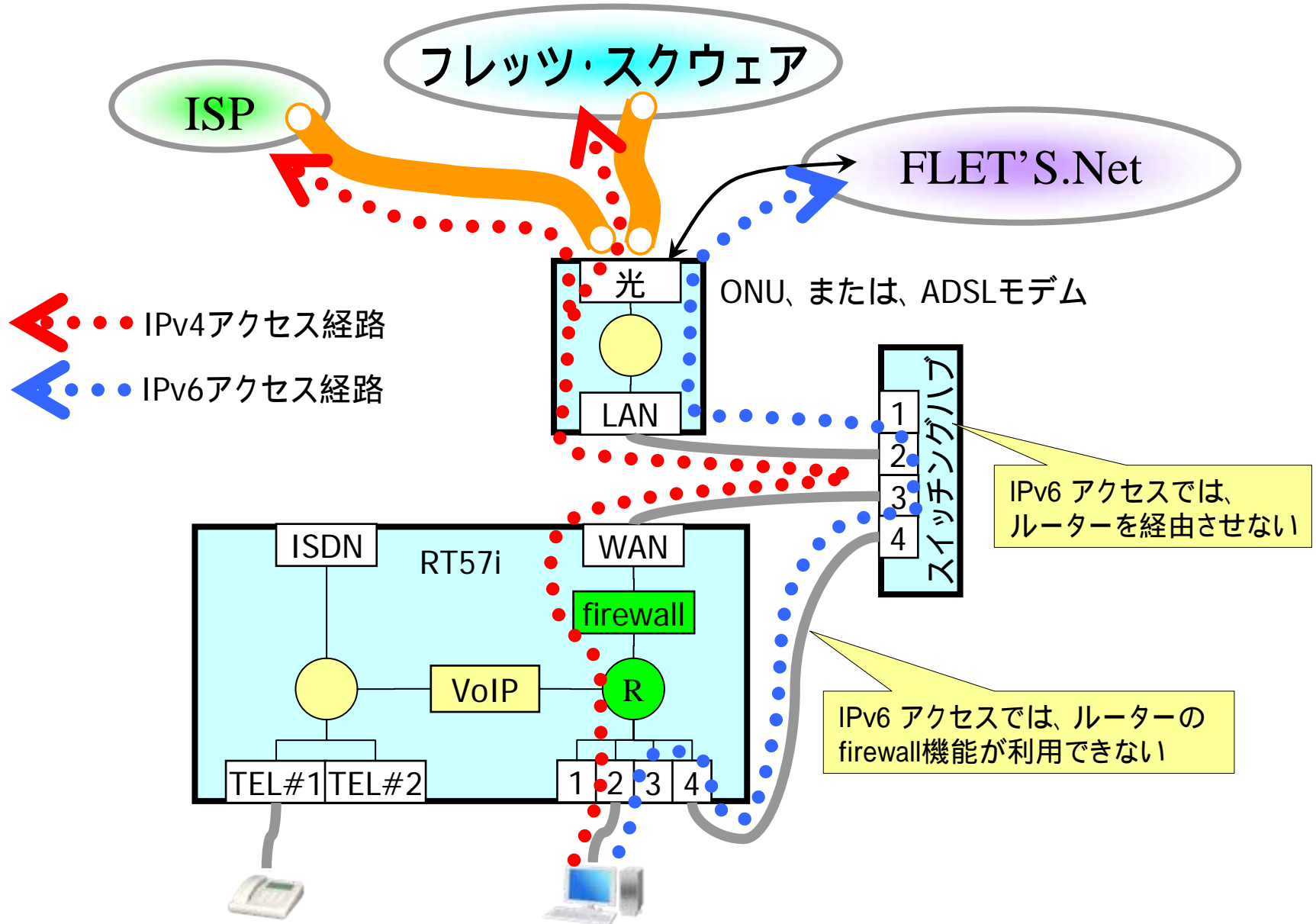
版(試行版)の新規実装概要

- RA Proxy機能により次の機能が併用可能になる。
 - o IPv6ルーティング
 - o IPv6ファイアウォール (ステートフル・インスペクション相当)
- WWW設定機能
 - o RA Proxy機能の利用
 - o IPv6セキュリティレベル 2段階の選択(無し&有り)
 - o IPv6フィルタ設定の編集機能

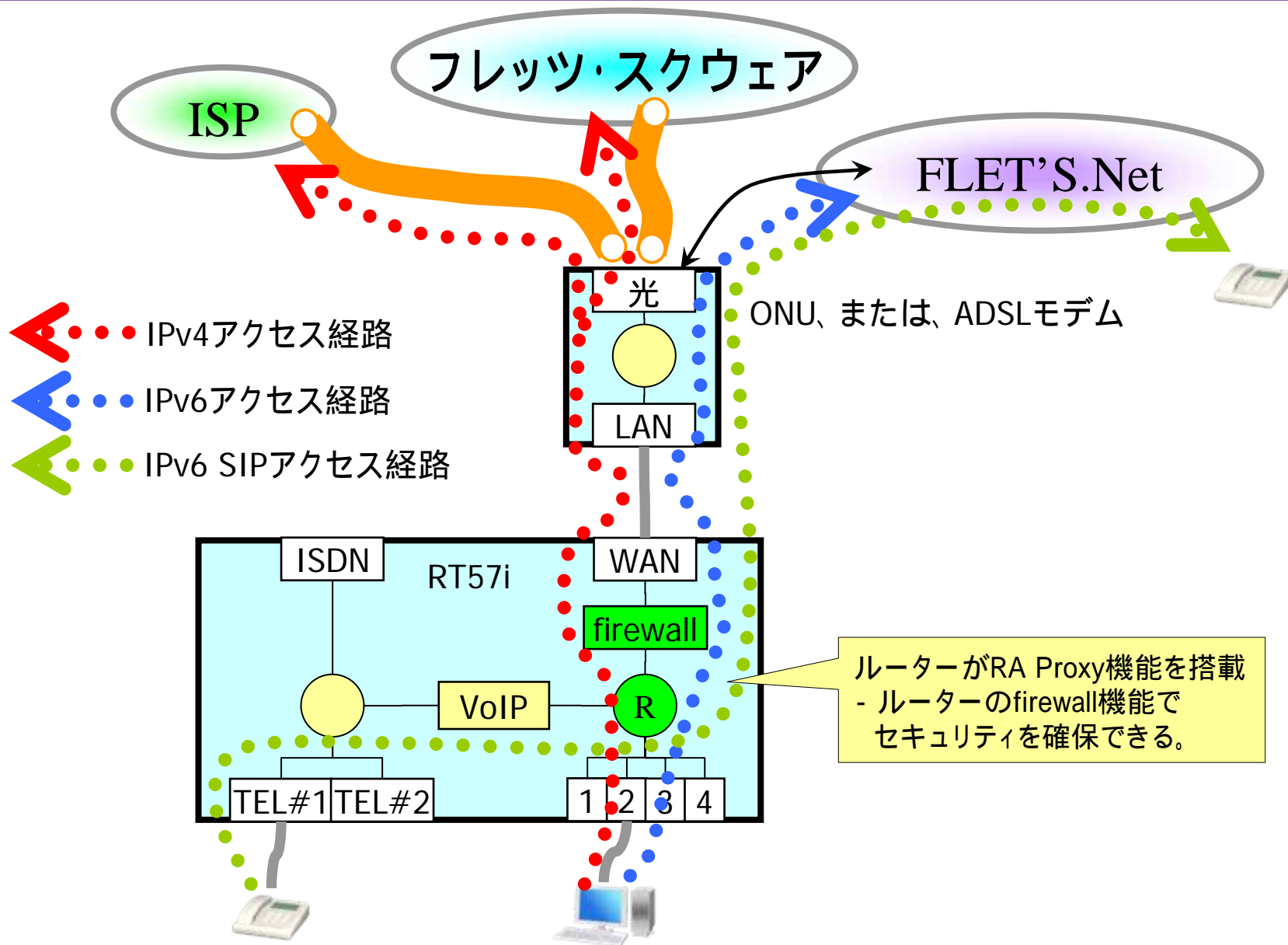
従来機能の概要

- フレッツ・スクウェアの同時利用
- RT57iのIPv6 SIP機能によるFLET'S.Netナンバー利用

従来のFLET'S.Net用配線



RA ProxyによるFLET'S.Net配線



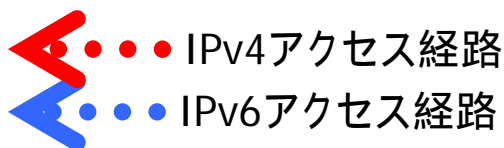
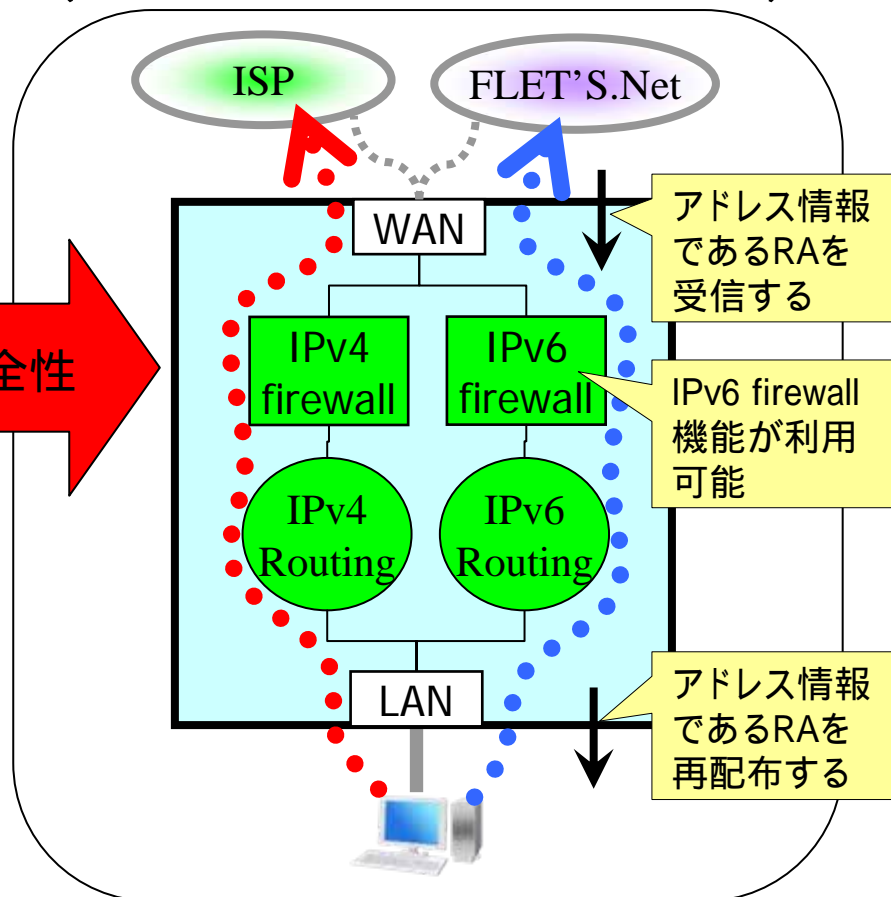
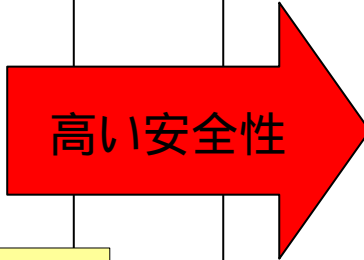
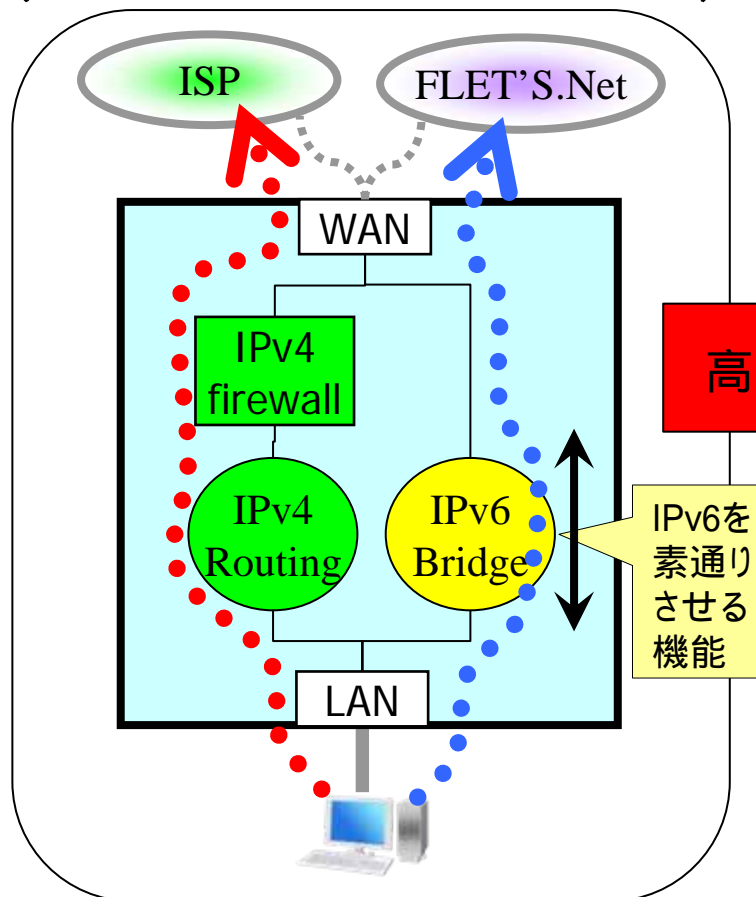
“IPv6ブリッジ”と“IPv6ルーティング”

“IPv6ブリッジ機能”

(IPv4専用ルーターでの対応例)

“IPv6ルーティング+RA Proxy機能”

(IPv4/IPv6ルーターの標準対応)



PPPoEによるISPの接続設定

- フレッツ・ADSLやBフレッツを想定した設定

cf. <http://netvolante.jp/solution/int/case2.html> (インターネット接続)

フレッツ・スクウェアの接続設定

- 設定例紹介ホームページ製作済み

cf. <http://netvolante.jp/NetVolante/ntt-flets/index.html>

IPv6の接続設定

- IPv6の接続設定画面で「RAを受信する」の選択
- 設定例紹介ホームページ製作中

1: dns server selectコマンドで“flets.net”を追加する。

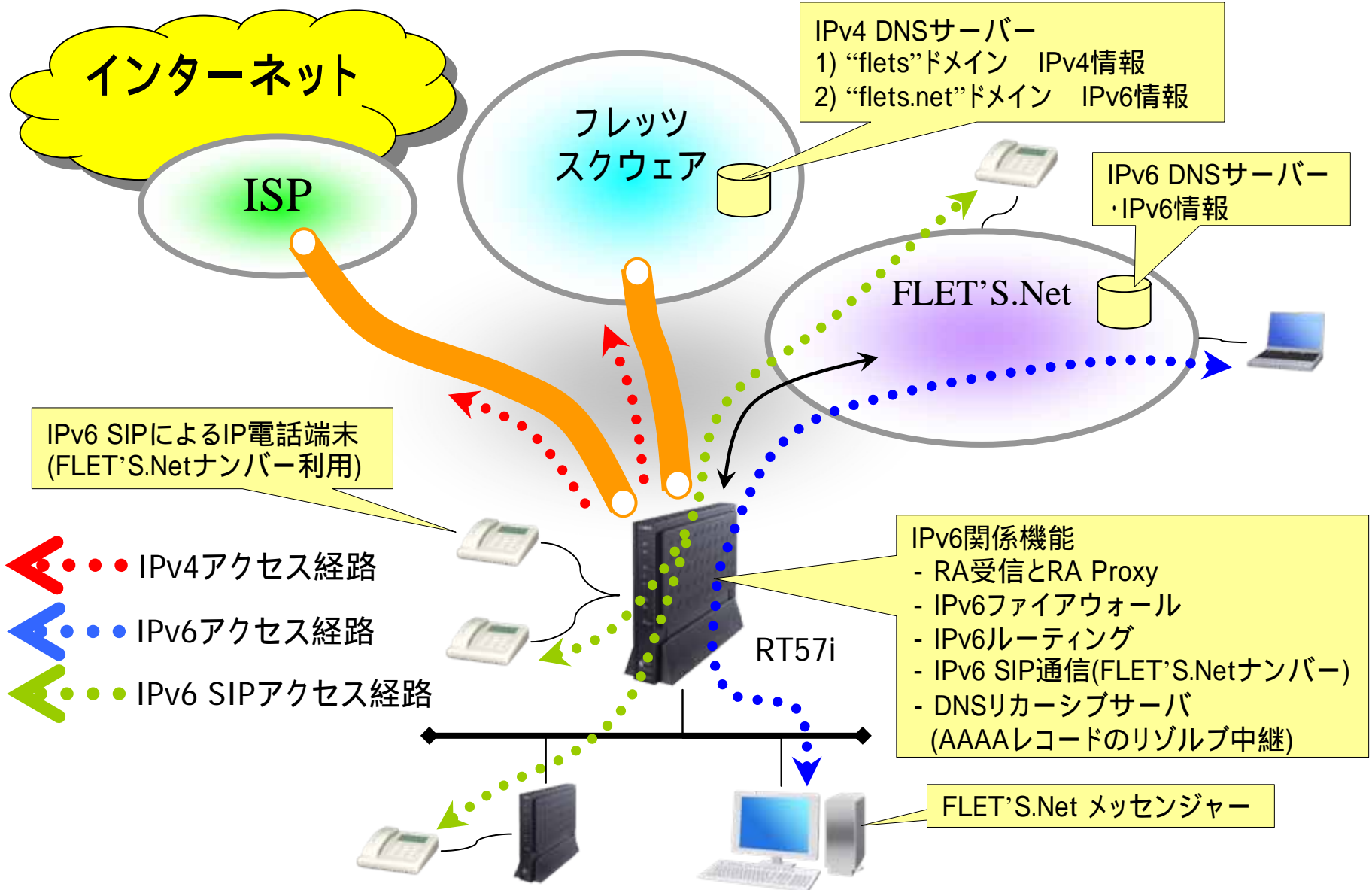
2: ファイアウォール機能とSIPを併用するときには、ポートを開ける。

FLET'S.Netナンバー設定

- FLET'S.NetのSIPサーバーを登録

cf. <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/NTTIPv6/index.html>

FLET'S.Net環境で可能なこと



RTX1000用ファームウェア

- RTX1000 Rev.8.01.12 機能追加[4]にて、「RA Proxy機能」を提供済み。

http://www.rupro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.08.01/relnote_08_01_12.txt

機能追加[4]

RAプロキシ機能は、WAN側で受信したRA(ルータ広告: Router Advertisement) をLAN側に転送する機能である。プロバイダがRAを広告し、ルータの配下に IPv6端末が存在する場合、この機能を設定することで、ルータの配下のIPv6端末が通信できるようになる。

なお、DHCPv6 PDを使ってプレフィックスを配布するサービスでは、この機能を設定する必要はない。RAで配布されたプレフィックスを表現するキーワードとして「ra-prefix」を利用できる。例えば、次の設定では、LAN2インタフェースで受信したRAをLAN1 インタフェースに転送する。

```
ipv6 prefix 1 ra-prefix@lan2::/64
```

```
ipv6 lan1 rtadv send 1
```

次の設定は、LAN2インタフェースで受信したRAのプレフィックスに::1を付け足してIPv6アドレスを作り、それをLAN1インタフェースに付与することを意味する。

```
ipv6 lan1 address ra-prefix@lan2::1/64
```

IPv6フィルタでも同様の表記を利用できる。

```
ipv6 filter 1 reject ra-prefix@lan2::/64 *
```

```
ipv6 filter 2 pass * ra-prefix@lan2::1 * tcp * www
```

次の設定は、RAプロキシ機能を利用する最小限の設定例である。LAN1インタフェースをLAN側に、LAN2インタフェースをWAN側に割り当てるものと仮定する。

```
ipv6 lan1 address ra-prefix@lan2::1/64
```

```
ipv6 prefix 1 ra-prefix@lan2::/64
```

```
ipv6 lan1 rtadv send 1
```

なお、このケースで、LAN2インタフェースにIPv6アドレスを設定してはならない。IPv6アドレスはLAN側のインタフェースのみ設定できる。

ルーティングについては、RAを受信したタイミングで、自動的にデフォルト経路が設定される。したがって、ipv6 routeコマンドを手動で設定する必要はない。